

私の留学体験記

広島県立広高等学校 1年 河合 陽菜 (かわい ひな)

留学期間 令和2年1月21日 ~ 令和2年3月28日 (68日間)

留学先 Avonside Girls' High School (Christchurch, New Zealand)

今回、私が留学させて頂いた期間は、約2ヶ月という短い期間でした。元々は3ヶ月の予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、早期帰国という結果になりました。今回は、その2ヶ月間の体験を記そうと思います。

私は、今回の海外留学を高校生活の大きな目標の一つとして今まで生活してきました。なので、この留学の話聞いた時に頑張ろうと思う反面、3ヶ月という短い期間でどうやって有意義な生活にしようか、という不安もありました。以前同じプログラムでニュージーランドに留学された先輩に話を伺った時、3ヶ月でも自然にコミュニケーションをとるのは難しく、自分も3ヶ月目でようやく慣れたと言われたからです。そう思うと、より積極的にコミュニケーションを取り、会話を身に付けていった方が自分の為になるのではないかと思います。

現地に着いて1週間は、ガーディアンの方々がホストファミリーと色々話をしてくださっていて、自分自身はどうしたらいいのかが全く分かりませんでした。しかし、ホストマザーが、私が聞き取りやすいようにゆっくりと話してくれたり、一緒に住んでいたベトナム人留学生の子が分かりやすい英文に直してくれたりしてとても親切でした。学校が始まると、現地の日本人や先生方、同じ学年 (Year 11) の生徒が色んな場面で助けてくれました。

私が通った Avonside Girls' High School は数年前に起こった地震により倒壊し、新しく建て直された女子高校でした。授業では毎日パソコンを使用するので学校が始まった頃は操作に苦労しました。内容は中学3年生で習う事なのに、英語になるとほとんど分からなくなってしまい、ずっと電子辞書で単語を調べたり、先生に聞いてみたりして何とかみんなに追いついていました。また、現地の学校にはインターバルという短い休憩があり、皆その時間にお菓子を食べたりしていました。日本の生活には昼休憩しかないので、気分もリフレッシュできて、いいスタイルだと思いました。イベントも盛んで、近くの運動公園を借りて自分のチームカラーの私服を着て出場選手を応援する、体育祭のようなイベントがありました。また、3ヶ月間の留学生のみでキウイバードを見たりマオリの伝統文化を実際に体験できる施設に行ったりもしました。

私は、今回の留学を通して、自分で考えて行動に移す事の重要性を学びました。今までは周りの意見に合わせてついていっただけだったけど、周りの意見だけでなく自分自身の意見を持って、それを相手に伝えることで、より自分の会話能力や言語能力の発達につながると思います。

これからの生活では、分からないことや不安なことがあったとき、自分で抱え込んで後回しにするのではなく、分からないという自己主張をして周りに頼ってみるということをしてみたいと思いました。